

長崎大学核兵器廃絶研究センター(RECNA)創設まで(前史)と、それから

2008.10
学長就任



2010.7-2011.7 長崎大学平和構築研究センター(仮称)設置検討委員会



2009.4 オバマのプラハ演説
2009.8 政権交代
2011.3 東日本大震災 / 福島原発事故



2012.4 長崎大学核兵器廃絶研究センター(RECNA)設置

2012-2014 北東アジア非核兵器地帯への包括的アプローチ

2013.2 ナガサキ・ユース代表団第1期生

2015.11 パグウォッシュ会議世界大会開催



2012~

2014.4 多文化社会学部設置

2017.9
学長退任

2018.5 J-PAND発刊



2015~



2019~

2017.7 核兵器禁止条約UN採択

2019.6 米朝首脳会談

2020- コロナ禍

2022.2 露ウクライナ侵攻

2022.4 RECNA10周年

長崎大学核兵器廃絶研究センター(仮称)設置検討委員会 長崎大学平和構築センター(仮称)設置検討委員会

<学内委員>

- 学長
- 理事(研究・社会貢献担当)
- 理事(総務・情報担当)
- 理事(教学担当)
- 教育学部平和・多文化センター長(H23.3.31まで)
- 歯医学総合研究科長
- 歯医学総合研究科附属原爆後障害医療研究施設長
- 歯医学総合研究科附属原爆後障害医療研究施設准教授
- 学術情報部学術情報管理課長(H23.3.31まで)
- 学術情報部学術情報管理課長(H23.7.9から)

- 片峰 茂
- 須賀 正幸
- 舟越 秋一
- 山下 俊一
- 永山 雄二
- 三根 真理子
- 中島 重武
- 叶井 貴一郎

<学外委員(学外有識者)>

- 京都外国語大学外国語学部教授
- 東京外国語大学大学院総合国際学研究院教授
- 大阪女学院大学大学院・大阪女学院大学教授
- 元長崎大学長
- 日本赤十字社長崎原爆病院長
- 特定非営利活動法人ピースデポ事務局長
- 宮崎公立大学人文学部教授
- 長崎県総務部長(H23.3.31まで)
- 長崎県総務部長(H23.7.9から)
- 長崎市長
- 長崎原爆被爆対策部長
- 長崎原爆資料館館長
- 国立長崎原爆死没者追悼平和祈念館館長

- 石栗 勉
- 伊藤 寛治
- 黒澤 満
- 宇山 泰夫
- 朝長 方直典
- 市村 裕子
- 山口 桂子
- 池松 誠三
- 山上 肇久
- 黒川 智夫
- 中村 明俊
- 森田 隆

○委員長

長崎証言の会設立
長崎平和研究所設立(~2010)
「長崎平和研究」誌発行(~2010)

鎌田定夫・信子夫妻



“反核”、“平和”、“非戦(反戦)”
“平和構築”

長崎大学平和構築研究センター(仮称)設置検討委員会

- 第1回:2010.7.9
- 第2回:2010.9.18
核兵器廃絶への特化(黒澤)
- 第3回:2010.12.3
核兵器廃絶研究センター(学長試案)
Center for Nuclear Weapon Abolition

長崎大学核兵器廃絶研究センター(仮称)設置検討委員会

- 第4回:2011.7.9
センター長候補者人事

長崎大学核兵器廃絶研究センター創設(2012.4.1)

2018.5 J-PAND創刊

土山秀夫先生とのご縁



土山 秀夫
長崎大学元学長

長崎平和宣言起草委員
「核兵器廃絶-地球市民集会ナガサキ」
委員長
「世界平和アピール七人委員会」委員
長崎市名誉市民

1925 出生

1945 長崎原爆被ばく

1952 長崎大学医学部卒業

1969 長崎大学医学部教授

1982 長崎大学医学部長

1988 長崎大学学長(第10代)

1992 長崎大学退任

2012 RECNA 設置

2017 逝去



1950 出生

1969 長崎大学医学部入学

1976 長崎大学医学部卒業

1991 長崎大学医学部助教授

1998 長崎大学医学部教授

2008 長崎大学学長(第14代)

2017 長崎大学退任

2017年9月

2日 土山先生ご逝去

4日 J-PAND創刊記者会見

28日 長崎市・長崎大学合同葬

30日 学長退任



写真提供：長崎新聞社



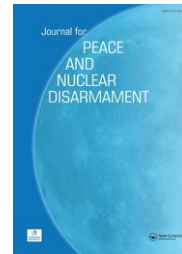
写真提供：長崎大学

Foreword

J-PAND and Nagasaki University

[Shigeru Katamine](#)

Pages 5-10 | Accepted author version posted online:
27 Mar 2018, Published online: 28 Mar 2018



In memory of the late Dr Hideo Tsuchiyama

Based on his academic background, he always emphasized that scientific and logical reasoning for an intellectual argument against nuclear weapons should be encouraged to synergize with the emotional impact of testimonies given by Hibakushas to keep the world from the scourge of nuclear war. Actually, he was the person who had the idea to create RECNA and eventually led the effort to publish J-PAND. Therefore, I dedicate this short article to the late Dr Tsuchiyama and to the first issue of J-PAND.

博士は、その科学者としての基盤に基づき、**ヒバクシャの実体験に基づく感性と連携した核兵器に抗する科学的な理論の構築こそが世界を核戦争の悲劇から救うことができると、**常々強調されていました。土山博士こそは、RECNA 創設の発想を長崎大学にもたらしてくれた人物であり、ひいては J-PAND の生みの親でもあるのです。私は、本稿と J-PAND 創刊号を故土山秀夫 博士に謹んで捧げたいと思います

まとめ

- 歴史的必然としてのRECNA創設とその後の活躍
- 必然を可能としたヒトと時空(時機、空間)
- 歴史的使命を負ったRECNA
- 長崎大学にとってのRECNA、J-PANDの意味